

# コロナ禍における山口大学アドミッションセンターの入試広報 —2019年から2022年の入学者アンケートをもとに—

竹 本 真理恵  
林 寛 子

## 要旨

コロナ禍で入試広報に大きな変化があった。本稿では入学時調査をもとにコロナ禍前とコロナ禍での進路選択の状況や進路選択におけるコロナの影響と入試広報への接触状況を明らかにする。進路決定時期に志願者が進路選択に迷った時には、大学から発した情報や身近な人からの情報が非常に重要である。入試広報は、大学から発信する情報をいかにして周知するかが課題である。

## キーワード

入試広報， コロナ禍， オンライン， 進路選択

## 1 はじめに

2021年度は大学入学共通テストが導入され、AO入試は総合型選抜に、推薦入試は学校推薦型選抜へ変更されるという入試改革が行われた。山口大学は2021年度入試改革に向けての議論を行ってきたが、最終的に大きな改革には至らなかった。しかし、日程等は文部科学省の規定に倣い大幅な変更が生じたため、本来ならばこれらの入試改革に伴う入試広報を大々的に行わなければならなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2020年は十分な入試広報が行えず、混乱状態のままに2021年度入試を行うこととなった。

2019年度までは対面での入試広報を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、対面での入試広報ではなく、新たな入試広報を模索しなければならなくなった。「コロナ禍」と言われて3年が経過し、現在終息に向かいつつある中で、大学は今後如何にして入試広報を行っていくかが重要となる。

本稿では、コロナ禍前からコロナ禍にかけて取り組んできた入試広報を振り返るとともに、入試広報の変化による入学者の変化を明らかにすることを目的とする。具体的には、山口大学入学者を対象に毎年入学時に行っている調査をもとに、コロナ禍前とコロナ禍で進路選択にどのような変化が生じているのか、また、受験者の大学情報の入手の仕方にどのような変化が生じているのかを明らかにした上で、今後の山口大学の入試広報の在り方を検討する。

## 2 山口大学のコロナ禍の入試広報

入試広報は、①企業が主催する説明会、②高等学校が直接本学に依頼をし、講師を派遣する説明会、③山口大学が主催する説明会と大きく3つに分けられる。①企業主催の説明会では、1つの会場に複数の大学等が参加し、ブース形式により個別相談を行う合同説明会と、高等学校に来学し複数の学生に対して大学の説明を行う高等学校内説明会とに分けられる。表1は2019年から2022年までの入試広

表1 2019年から2022年までの入試広報

			2019(H31)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
①企業主催	合同説明会	対面	17	中止又は不参加	8(不参加・中止有)	15
		オンライン			1	1
	高等学校内説明会	対面	2	5	7	6
		オンライン			17	24
②高等学校依頼		対面	8	1	4	5
		オンライン				2
③山口大学主催	ガイダンスセミナー(3月又は4月)	対面	3/22	中止	4/17	4/16
	AO入試説明会(5月)	対面	5/9・5/15・5/22	AO入試→総合型選抜へ変更の為		
	高等学校教諭対象説明会(7月)	対面	7/3・7/10・7/11	中止	中止	7/1
		オンライン			7/1・7/2・7/7・7/8	7/1
	高等学校教諭対象学部説明会・個別相談会(7月)	オンライン				7/6・7/7
	オンライン個別入試相談会(8月)	オンライン		9/10・9/11・9/12	7/29・7/30・7/31	8/8・8/9・8/10
	高等学校教諭対象学部説明会・個別相談会(11月)	オンライン			11/25・11/26	
	大学説明会(9月)	オンライン				9/11
	大学説明会(11月)	オンライン				11/13
	大学説明会(12月)	オンライン			12/4・12/5	12/4
大学説明会(3月)	オンライン			3/27	3/26	

報の実績をまとめたものである。表1の①企業主催の説明会と②高等学校依頼の説明会は参加した件数を、③山口大学主催の説明会は実施した日にちを記載している。

## 2.1 2019年度の入試広報

コロナ禍以前の2019(平成31)年度は対面のみの説明会であった。①企業主催の合同説明会には17件参加をした。①企業主催の高等学校内説明会には2校参加した。2019年度は②高等学校依頼の説明会が多く行われており、8校に参加し、山口大学の説明を行った。③山口大学主催の説明会は利便性を考え、駅近くの場所を借り、県を跨いで7会場で行った。ガイダンスセミナーは主に高校生を対象とし、山口大学の説明と在学生による入試体験談や大学生活等の説明を行った。また、AO入試説明会も開催しており、山口市、広島市、福岡市の3会場で高等学校教諭を対象にAO入試の特徴やAO入試出願にあたっての注意事項、AO入試入学者の特徴等の説明を行った。7月には選抜要項の公表に伴い、高等学校教諭対象の説明会を行い、本学の教育の特色や、入試選抜内容の説明、前年度の入試データ分

析結果等、受験に当たって必要な情報提供を行った。こちらも山口市、広島市、福岡市の3市で行った。山口市の会場は例年、山口大学で開催し、説明会終了後、各学部の個別相談にも対応できるようにしていた。

## 2.2 2020年度の入試広報

2020(令和2)年1月に国内で新型コロナウイルス感染症の罹患者が確認された。同年3月に文部科学省の通知により、小学校、中学校、高等学校で全国一斉臨時休業が行われた。また、緊急事態宣言が発出される等、混乱を極めた。2020年度は①企業主催の合同説明会は軒並み中止となった。日程を変更して開催した企業もあったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、山口大学は不参加とした。結果として参加件数は0件となった。①企業主催の高等学校内説明会は、やや増えたものの5校を訪問するのみであった。②高等学校依頼の説明会も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、依頼があったのは予備校1校のみであった。

③山口大学主催のガイダンスセミナー、高等学校教諭対象説明会も中止せざるを得ない

状況であった。AO入試説明会においては、2021年度入試から文部科学省の方針によりAO入試を総合型選抜入試という名称に変更することに伴い、出願受付開始日もこれまでの8月1日以降から9月1日以降に変更となった。そこで7月の高等学校教諭対象説明会の内容に総合型選抜説明会を組み込む形で開催しようとしたが、結果としては中止を余儀なくされた。2020年度は1年間を通して、対面の説明会がほとんど出来なかった年であった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、総合型選抜の出願受付開始日も1ヶ月の後ろ倒しとなり、受験者も大学も混乱を極めた時期であった。この間、入試広報活動が全くできていない状況であったため、総合型選抜に出願してくる志願者の不安を少しでも解消すべく、オンラインでの「総合型選抜受験者のためのweb個別相談会」を行うこととした。予約制の相談会とし、相談会に参加する前に「総合型選抜について」の動画をホームページ上で視聴し、総合型選抜の内容を確認した上で相談会に参加するようにした。これが山口大学の入試広報における最初のオンライン説明会となった。

### 2.3 2021年度の入試広報

2021（令和3）年度は、2020年度の対面での説明会の中止により入試広報活動を行えなかった課題を踏まえ、オンラインを活用した入試広報活動を増やしていくことを試みた。

①企業主催の合同説明会は対面による実施となった。しかし2020年度に引き続き中止となった説明会や、新型コロナウイルスの感染拡大による中止等があり、参加できた説明会は8件であった。①企業主催の高等学校内説明会は、2021年度からオンラインの説明会が開始された。このオンライン説明会が開始されるようになり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、入試広報を行えるようになった。また、今までは遠方のため広報に行くことが難しかった高校にも参加が可

能となり、新規開拓を図って本学も積極的に参加をし、17校に山口大学の説明を行った。並行して、対面による高等学校内説明会も開催され、近県を中心に7校訪問し、広報活動を行った。

②高等学校依頼の説明会は①企業主催の高校内説明会に切り替わりつつあり、直接山口大学に依頼してくる高等学校が減り、4校にとどまった。

③山口大学主催の説明会も新型コロナウイルスの状況に合わせて変化させた。できるだけ対面での開催を試み、準備を行いつつ、オンラインの特性も活かした広報活動を模索した。4月に開催したガイダンスセミナーは、利便性の良い駅近くの会場から山口大学へと場所を変更した。これは、2020年度のオープンキャンパスが対面での開催が中止となり、オンライン開催へと切り替わったことで、志願者に大学に足を運んでもらう機会がなくなったためである。少しでも高校生に山口大学の雰囲気を知ってもらい、興味関心のある学部について知ってもらうことを狙いとした。

ホームページ上で事前の予約を取り、人数制限を行い、新型コロナウイルス感染症対策を施した上で開催した。7月の高等学校教諭対象説明会は当初対面で実施するように準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症蔓延の状況により、オンラインでの開催に切り替えた。開催日数を4日間設け、多くの高校に参加を促した。オンライン個別入試相談会は2020年度同様の形で開催した。さらに新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、企業主催の進路説明会の中止が相次いだため、志願者の多くが希望進路について具体的な情報収集がままならず、広報も行き届いていないと考え、11月に高等学校教諭対象の学部説明会と個別相談会を開催した。この説明会では、各学部の教員による学部説明会の後、申込者の個別相談に応じ、高校生に得た情報を提供してもらうことを狙いとした。12月には

こちらにも初の試みとして、高校生を対象としたオンライン山口大学説明会を開催した。この説明会も情報収集できない高校生に対して情報を提供することと、近隣県だけでなく、幅広い地域で山口大学に興味・関心を持っている高校生に本学の魅力を知ってもらう事を目的とした。山口大学の教育の特色、各学部のワンポイント紹介、入試制度の説明、さらに在学学生による大学生活や受験時の勉強の仕方等のプログラムを企画し、高校生により身近に大学を感じてもらい、受験に向けてすべきことを認識してもらうようにした。3月には1・2年生を対象としたオンライン説明会を開催し、早くから大学入学を意識して大学研究を行ってもらえるように開催した。

このように、2021年度は対面による説明会の開催を模索しつつ、新型コロナウイルスの影響を考慮したオンライン説明会を開催することで、情報提供の場を確保することを試みた年であった。

## 2.4 2022年度の入試広報

2022（令和4）年度は、コロナ禍ではあるが、できる限りコロナ禍前の入試広報に戻すこととした。

①企業主催の説明会は新型コロナウイルスが蔓延していても中止されることはなくなり、山口大学も開催された説明会に参加した。しかし、コロナ禍で説明会そのものが開催中止になっているものや、引き続きオンライン説明会のままで開催している説明会もあった。

①企業主催の合同説明会にはコロナ禍前と変わらない15件に参加した。また①企業主催の高等学校内説明会も対面は2021年度と変わらない件数を訪問し、オンライン説明会においては、2021年度の約1.5倍の24件参加した。

②高等学校依頼の説明会は企業主催の説明会に取って代わり、5校と少なくなっている。2022年に特徴的だったのが、高等学校依頼による、オンライン説明会であった。普段訪問することのできない遠方の高校から山口大学

に直接依頼があり、参加した。

③山口大学主催の説明会においても、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、感染対策を施したうえで、コロナ禍以前に行っていた説明会は対面で開催した。ガイダンスセミナーは昨年同様に行い、学生のイベントも増やしつつ、大学の様子や学部の様子を知ってもらう機会とした。7月の高等学校教諭対象説明会は、今年是对面で行うと同時にオンラインで配信する、ハイブリッドスタイルで開催した。また、昨年は11月に開催したオンライン学部説明会を7月に開催した。この説明会では、学部説明会の前に高等学校教諭対象説明会の録画を流すことで、多くの先生に山口大学の概要と特徴を伝えた。高校生を対象としたオンライン大学説明会も今年度は4回（9月・11月・12月・3月）開催し、より多くの高校生に大学の情報を得る機会を増やした。

このように、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、企業主催の説明会も山口大学主催の説明会も、入試広報が大きく変化をした。オンラインを取り入れた入試広報は、今までアプローチできていなかった遠方の高等学校や高校生に接触することができるようになり、新たな広報活動の一つとして定着しつつある。しかし、企業主催のオンラインまたは対面による高等学校内説明会においては、高等学校の先生と直接話す機会がなく、訪問してその高等学校の実情を知る機会が減った。高等学校の現状を把握することは、今後の入試広報や入試制度設計の見直しにつながることであり、企業主催の説明会が増えることは、そうした実情が把握しにくくなるという懸念がある。大学が主催する説明会は、大学の情報を高校教諭や志願者に対して的確に発信することが可能であり、大学主催の対面の説明会では高等学校との情報共有も可能である。今後の広報活動においては、説明会を行っていることをいかに周知するかが重要である。

### 3 入学者の大学入試広報の接触

#### 3.1 分析データの概要

コロナ禍前・コロナ禍で行ってきた入試広報が入学者の進路選択や入試情報の利用等にもたらした影響を明らかにするために、入学時に行った調査をもとに検証を行った。

山口大学では、新入生のオリエンテーション等を利用して、入学時調査を行っている。調査方法は、悉皆調査とし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2021年度以降はWeb調査とした。表2は入学者数と回収率である。

表2 入学者数と回収率

	コロナ禍前			コロナ禍		
	2019年度	2020年度	合計	2021年度	2022年度	合計
入学者数	1,977	1,959	3,936		1,992	3,958
回収数	1,882	1,258	3,143		1,714	3,488
回収率	95.2	64.2	79.9		86.0	88.1

2020年度入学者はコロナ禍初年度ではあるが、この調査は入学者の前年の状況を調査しているので、コロナ禍前の対象となる。2020年度の入学時調査は、コロナ禍で対面での新入生オリエンテーション等が行われず、オンライン開講の授業が続いたので、調査が困難となり、回収率が他の年度に比べて低かった。

分析においてはコロナ禍前の2年間（2019年度入学者、2020年度入学者）とコロナ禍の2年間（2021年入学者、2022年度入学者）とし、コロナ禍前とコロナ禍とを比較することにより、入学者の進路選択の変化や、入試広報との接触状況について検討する。

#### 3.2 コロナ禍前とコロナ禍の進路選択の状況

まず、出身県については、コロナ禍では山口県内と山口県以外の中国地方の入学者が増えた（図1）。一方で、九州地方と近畿地方の入学者が減った。次になぜ大学進学を選択したのかについて確認した（図2）。コロナの状況にかかわらず、「専門的な知識を身に付けるため」の割合が多い。コロナ禍では特に「幅広い教養を身につけるため」「専門的な技術・技能を獲得するため」「学歴を得るため」が大きく減っている。そして「資格や免許を取得するため」や「友人を得るため」と回答した割合が増えた。次に山口大学を受験した理由を確認した（図3）。コロナ禍前から「国立大学だったから」が7割を超えていたが、コロナ禍ではさらにその割合が増えた。コロナ禍前は「入試科目が自分にあっていたから」「専攻したい学問分野があったから」「選抜方法が自分にあっていたから」「総合大学だったから」「先生が勧めるから」の割合が多かった。次に山口大学を志望校の1つに決めた時期を確認した（図4）。「大学入学共通テスト自己採点終了以降」の志望校決定は一定数いるものの、「高校3年になる前まで」に志望校を決定している割合がコロナ禍では増えている。コロナ禍で高等学校が企業主催の高校内説明会へ切り替え、1、2年生の時から多くの大学の説明を聞く機会が増えたことにより、早い段階で大学を選択し、決定していく意識が芽生えているの

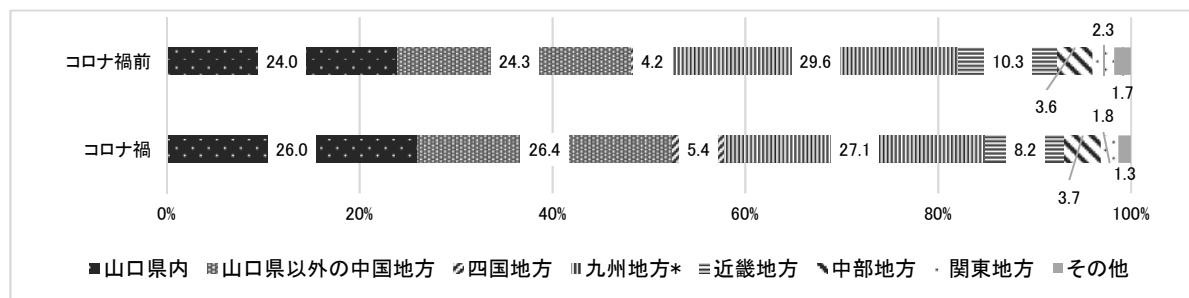


図1 出身高校の所在地

$\chi^2=26.095$   $df=7$   $P=0.000$

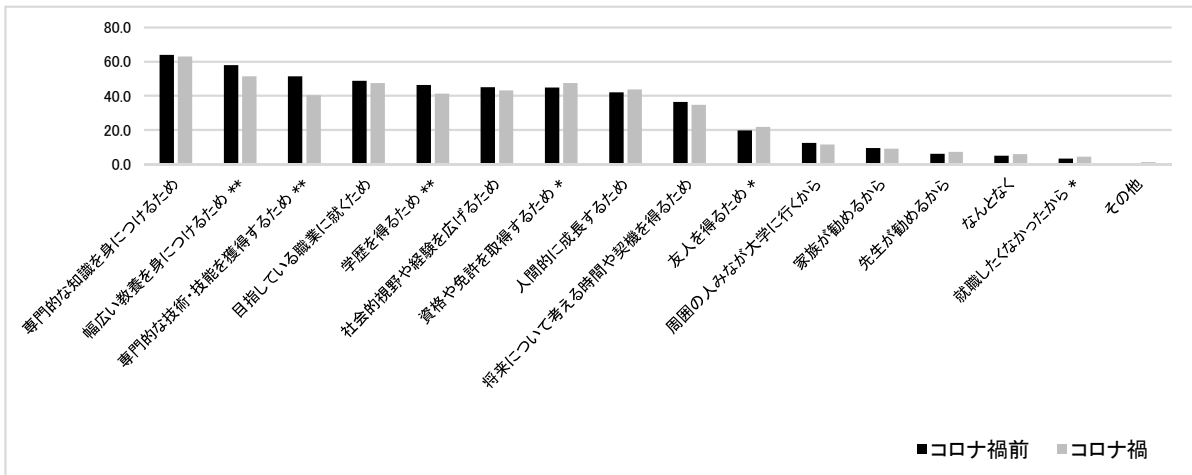


図2 大学進学を選択した理由

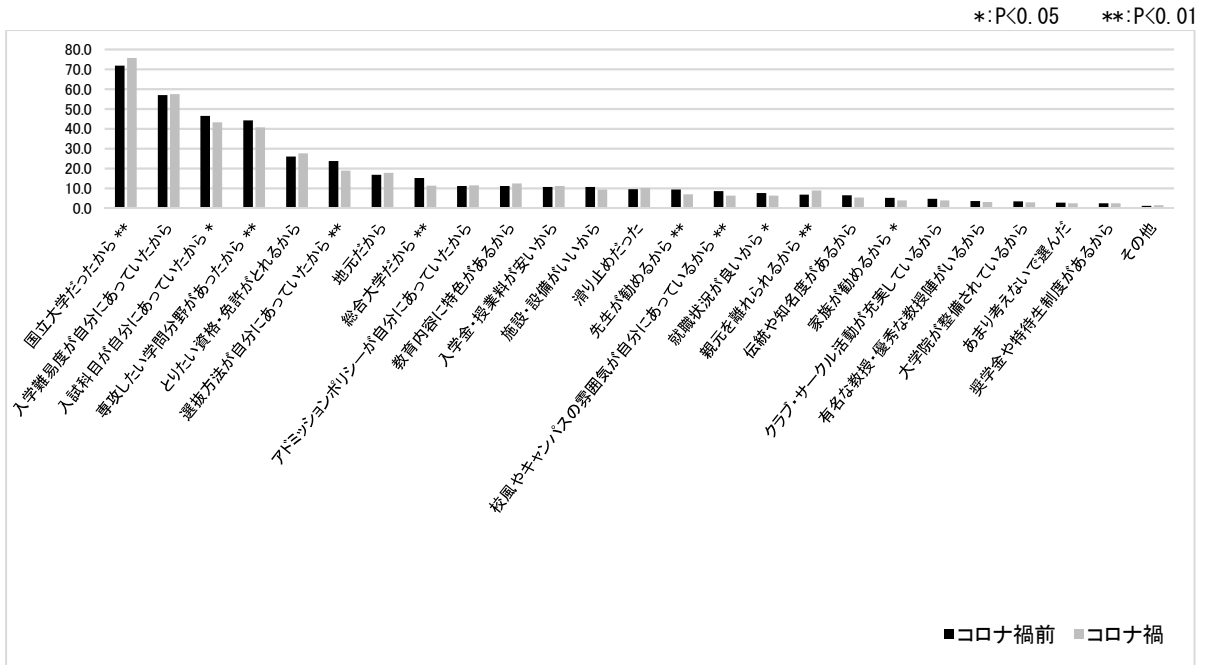


図3 山口大学を受験した理由

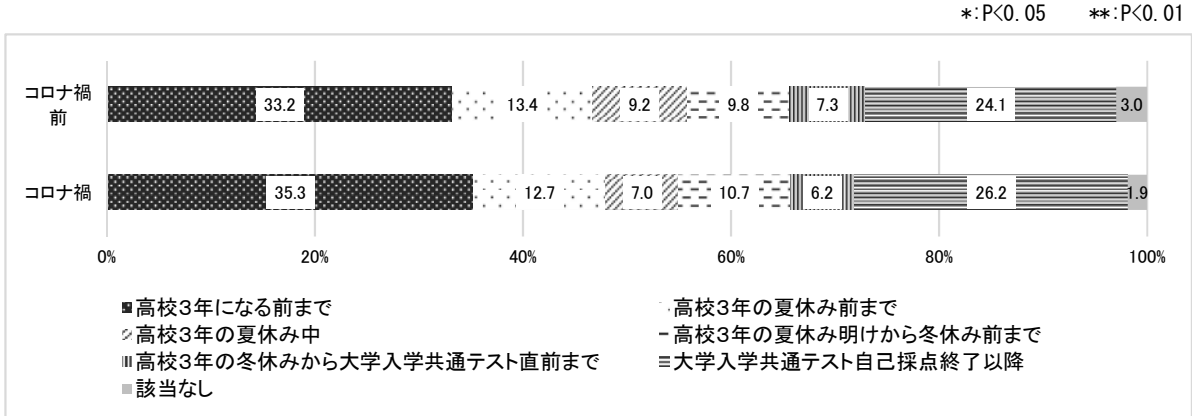


図4 山口大学を志望校の一つに決めた時期

$\chi^2=27.361^a$      $df=6$      $P=0.000$

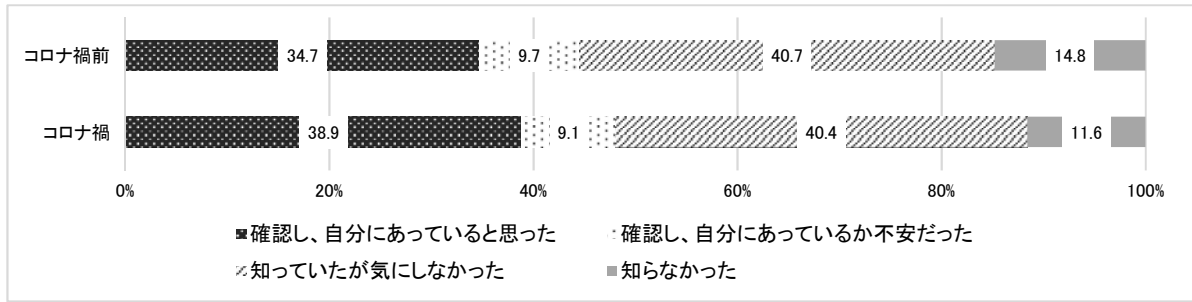


図5 アドミッションポリシーの確認の有無  $\chi^2=20.284^*$   $df=3$   $P=0.000$

ではないかと考えられる。また、山口大学を進路選択する時期にアドミッションポリシーを確認したかどうかについて確認した（図5）。コロナ禍では、山口大学のアドミッションポリシーを進路選択時に「確認し、自分にあっていると思った」割合が大きく増え、きちんとアドミッションポリシーを確認し、理解したうえで受験している。

このように、コロナ禍前とコロナ禍とでは進路選択において違いがあった。コロナ禍では進路選択決定の時期が早まり、行きたい大学のアドミッションポリシーを確認する傾向にある。また、漠然と大学に行くのではなく、資格や免許の取得といった目的を持って大学を選択する傾向にあることが明らかになった。

### 3.3 進路選択におけるコロナの影響と入試広報の接触

コロナ禍前とコロナ禍で、受験者がどのような媒体を使って大学を調べているのか、違いがあるのかを検証した（図6）。コロナ禍前、コロナ禍にかかわらず、「ホームページ」

「大学案内」「学校の先生の説明」で調べた割合が多い。コロナ禍では受験産業のwebや冊子で発信される情報や「対面のオープンキャンパス」で山口大学について調べた学生が減り、身近な「先輩」に話を聞く割合が増えた。次に山口大学を調べるにあたって、影響を与えた情報について確認した（図7）。こちらも図6同様、「大学のホームページの情報」「学校の先生からの説明」「大学案内の内容」が大きな割合を占めている。また、「webサイトの受験情報」や「受験情報誌の内容」が影響を与えたと回答した学生がコロナ禍では大きく減った。大学について調べた情報や影響を与えた情報は、コロナの状況にかかわらず、大学案内やホームページ等、大学から発信された情報や高等学校の先生から与えられた情報が大きく影響しており、大学からの情報発信がとても重要であることがわかる。次に、山口大学のオープンキャンパス（対面・web）やガイダンスセミナーに参加したかどうかを確認した（表3）。

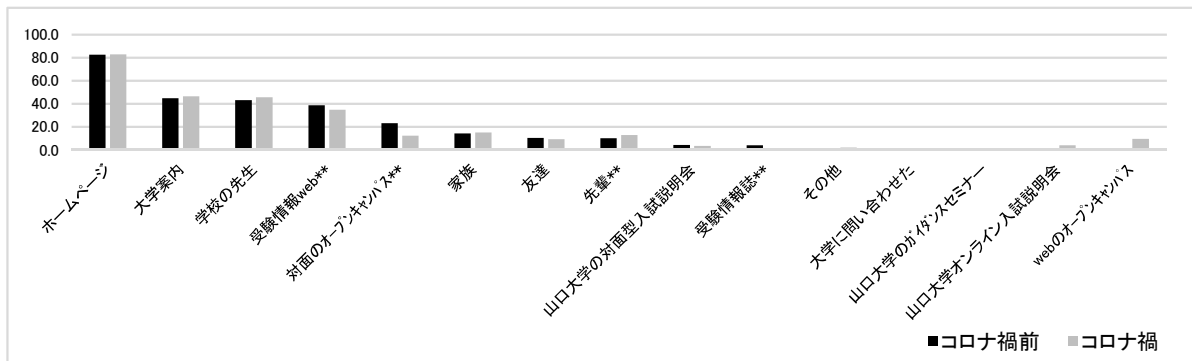


図6 山口大学について詳しく調べた情報 \*: $P<0.05$  \*\*: $P<0.01$

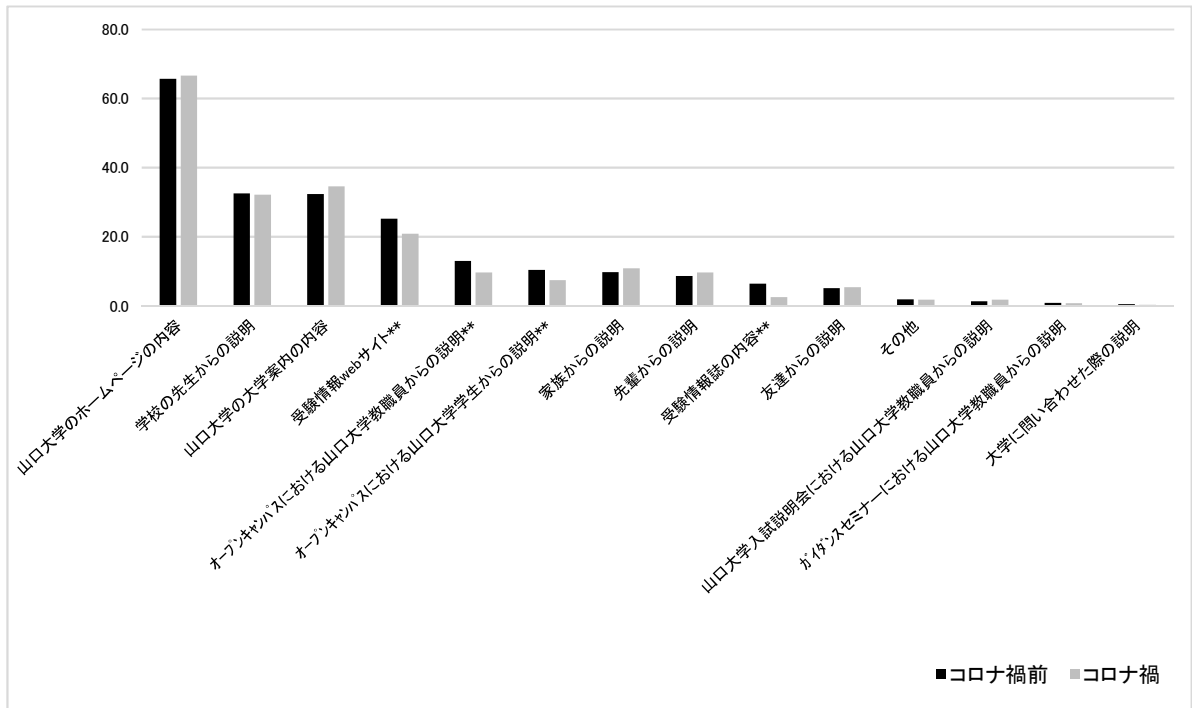


図7 山口大学を調べるにあたって影響を与えた情報 \*：P<0.05 \*\*：P<0.01

表3 山口大学のオープンキャンパス・ガイダンスセミナーへの参加率

	コロナ禍前	コロナ禍
対面OC参加**	28.9	45.8
webOC参加	-	13.3
ガイダンスセミナー参加	2.3	2.1

コロナ禍の対面でのオープンキャンパスの参加が大きく増えており、入学者の約半数がオープンキャンパスに参加していた。コロナ禍でのオープンキャンパスは、参加人数も制限されており、申込も先着順となった。コロナ禍においては、早い段階で志望大学の候補を決め、その大学が主催する説明会等に積極的に参加できるよう、常に情報を収集していることが伺える。

このように、コロナ禍前とコロナ禍では大学を志望した理由や調べた情報、影響を与えた情報に違いがあることが分かった。またコロナ禍は、第一志望大学の決定時期にも大きな影響を与えていた。そこで、今度はコロナ禍において、コロナの影響がどのように進路選択に影響を与えたのか、入試広報において

どの程度影響があったのかを検証した。

コロナ禍の入学時調査では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があったかどうかを複数回答形式で聞いた。新型コロナウイルス感染拡大の影響があったと回答した学生は全体の33.0%であった。どのような影響があったかを表4に示す。

表4 新型コロナウイルス感染症が与えた影響

休校が続いたことなどにより受験勉強ができなかった	45.3
部活動が自粛されたり、大会が中止されたりしたことにより、受験勉強への切り替えができなかった	40.8
休校や部活動の縮小などにより、受験勉強の時間が十分にとれた	21.0
新型コロナウイルス感染状況を考慮し、都市部ではなく山口を選んだ	17.5
コロナ禍の中での大学の学生対応、対面授業やオンライン授業の状況も進路選択の検討材料とした	5.1
新型コロナウイルスの感染がいつまた拡大するかわからないので、早い時期に行われる入試(総合型や学校推薦型)から受験することにした	4.8
その他	3.8
新型コロナ関連で家庭の経済状況が変化し、志望校を国立大学へと見直した	3.0
新型コロナ関連で家庭の経済状況が変化し、志望校を地元にした	2.2





ロス集計を行った（図9）。新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答した学生は、「大学案内」「学校の先生」「受験情報web」「先輩」「webのオープンキャンパス」「山口大学オンライン入試説明会」等の割合が影響がなかったと回答した学生より多かった。新型コロナウイルスの影響があったと回答した学生は、学校の先生や先輩など身近な人の情報が影響を与えたと回答している。また、新型コロナウイルスの影響の有無にかかわらず、ホームページや大学案内など、大学から発信される情報が影響を与えていることがわかる。

このように、新型コロナウイルスの影響があったと回答した学生は、自分の行きたい大学で何を学べるのか、どういった資格が取得できるのか、アドミッションポリシーが自分自身に適合しているのかなど、大学の教育内容をよく調べ、自身の将来像をある程度描いたうえで大学選択をしていることがわかった。

#### 4 まとめ

コロナ禍前とコロナ禍では、オンライン説明会を行うという点で大きく入試広報の仕方に変化があった。オンライン説明会は、対面の説明会に比べて労力が少なく、複数の日数や1日複数回開催することも可能である。また、遠方の人にも情報を届けることができるという利点がある。しかし、オンライン説明会では、対面による説明会でしか味わえない会場の雰囲気や大学の様子、直接大学関係者や在学生と会話することによって、納得できる回答を得るということができない。

進路決定時期に、志願者が進路選択に迷った時には、学校の先生の説明、先輩の説明等、身近な人からの情報や大学案内、オンライン大学説明会等の大学から発した情報が非常に重要になってくる。最終的には入試難易度の情報で進路決定が行われるが、大学選択で迷

ったときに、アドミッションポリシーや教育の特色、取得できる資格等、入試難易度以外の情報で大学を決定させる情報を志願者に届けることが大事である。そのためには、オンラインを活用して遠方の高校生や高等学校の先生に情報を届け、近隣県にはさらに対面による説明でよりきめ細かく大学の情報を届けることで、志願者に迷いなく大学を選択してもらうことが重要となる。今年度は共通テスト終了後から出願受付期間開始直後の1週間程度で「出願直前！一般選抜志願者対象オンライン大学説明会・学部説明会」を開催した。共通テスト自己採点以降、進路に迷う志願者に、山口大学全体の説明、学部の説明、個別の相談会を開催することで、山口大学の教育内容を伝え、出願を促すことを狙いとした。志願者本人が調べる情報はもちろんのこと、周りの教師や、保護者、先輩等身近な人からの情報も非常に重要であり、幅広く本学の情報を届けることが今後も望まれる。

(アドミッションセンター  
アドミッションオフィサー)  
(アドミッションセンター 准教授)

---

#### 【参考文献】

- (1) 山口大学アドミッションセンター，  
2019, 「大学受験時の状況に関する調査報告書 2019年度」
- (2) 山口大学アドミッションセンター，  
2020, 「大学受験時の状況に関する調査報告書 2020年度」
- (3) 山口大学アドミッションセンター，  
2021, 「大学受験時の状況に関する調査報告書 2021年度」
- (4) 山口大学アドミッションセンター，  
2022, 「大学受験時の状況に関する調査報告書 2022年度」